

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ローズタウン
(ユニット名)	三階 チェロユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市下荒田二丁目1 - 16
記入者名 (管理者)	瀬戸口 みどり
記入日	平成 19年 7月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		その人がその人らしく地域で生活していきたいという思いを大事にしながら、理念が実践できるように日々の努力が大事である。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		まずは、管理者と職員が常に同じ気持ちを持つ為にどうしていくかを考えることが課題である。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		引き続き、理解を得る為の声かけを行なう。認知症の正しい理解と、地域の中で皆さんと変わらない生活を送れるんだ。という事への理解を求める事が大切だと思う。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		引き続き、地域への理解と協力を得る為の声かけを行なう。利用者自身の地域行事や集まりへの参加を試み、利用者や地域の方々との関係作りを図りたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		利用者の参加が少ない。行事には参加しているが、自治会や老人会等の会合に参加する事がない。ここを利用する前に参加されていた利用者の方だけでも、利用する前と変えることなく参加できるような環境創りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自分自身の生き甲斐創りになる。との思いでボランティアを希望される。そういう方のボランティアの受け入れ。勉強会を開催し、その中で相談の場を設けたりしている。		引き続き、定期的な勉強会の開催や相談の場を設けることが出来れば良いと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は理解している。 職員は、理解できている職員、理解出来ていない職員もいる。		今後、評価を活かし理念の実践に向けて取り組んでいきたい。全職員が理解し、同じ気持ちで改善に取り組んでいけるようにしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行なっている。 地域の方からの御意見を聞いたり、御家族との面談も実施している。ただ、サービスに活かしているかは、疑問である。		今後も意見交換を積極的に行なっていきたい。せっかく頂いた御意見をそのままにせず、サービス向上に活かしていきたいと思う。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組めていないのが現状である。		質の向上を図る為にも、出来るだけ多くの場を設け取り組んでいければと思う。 また、市町村の方にも、理解して頂きたいと思う。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、制度の理解は出来ているが、職員は出来ていない。 現在は、該当する利用者の方は、いらっしゃらない。		制度の理解が出来ていない職員も多い。 該当者はいないが、制度については、職員全員が理解しておいた方が良いと思う。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が虐待について理解し、十分な注意を払い虐待防止に努めている。 声かけに気になる点がある。		声かけによる虐待を感じられる。 何気ない声かけではあるが気になる。今後、全員で学び改善していく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行なっている。</p> <p>文書と口頭で説明を行ない理解・納得を図っている。</p> <p>契約以降・解約以降も問い合わせがあった際は、随時説明を行なっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>機会を設け、反映していこうと努めてはいる。</p> <p>現在は、まだ十分ではない。</p>	<p>誰でも遠慮なく意見や不満、苦情の表せる環境創りに努めたい。</p> <p>意見や不満、苦情があった時は、本人が納得できるように対応していきたいと思う。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりについては、毎月、担当スタッフから家族宛の手紙・事業所たよりを発行し報告している。</p> <p>金銭面は、毎月、使用状況や残金状況を書面で報告している。</p> <p>健康状態については、随時、電話もしくは、面会時に報告している。また、病状的な面で心配な点・質問があれば、随時、Drから説明をしている。</p>	<p>暮らしぶりや認知症について心配や不安を持っていらっしゃる家族が多いように思う。そういった心配や不安を少しでも取り除けるように報告の仕方を工夫していきたいと思う。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>機会を設け、反映していこうと努めてはいる。</p> <p>現在は、まだ十分ではない。</p>	<p>機会を多く設ける事と遠慮なく気軽に話せる環境創りに努めたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>機会を設け、反映していこうと努めてはいる。</p> <p>現在は、まだ十分とは言えない。</p> <p>まだ十分に意見や提案を聞けていないと思う。</p>	<p>スタッフ一人一人が気軽に意見や提案が言ってくる雰囲気創りに努める。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望かに柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、取り組み中である。</p> <p>現在、勤務の時間の調整や時間帯の職員の確保は行っていない。</p> <p>業務の見直しは、その時の利用者の状況等に合わせ、随時行なっている。</p>	<p>今後、利用者や家族の状況の変化、要望があれば対応が出来るように努めていきたい。</p> <p>柔軟な対応の必要性を職員全体で確認していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮している。</p> <p>基本的に異動は行なっていない。</p> <p>離職については必要最小限に抑える努力はしている。</p>	<p>離職については、離職内容で未然に防げる事は防ぐ努力をしていく必要があると思う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	具体的な計画は立てていない。 職場内外の研修を受ける機会は確保されていると思う。 また、働きながらのトレーニングの実施も呼びかけていると思う。		今後も継続して行って欲しい。 個々に合わせた育成も必要ではないかと思う。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、交流する場があり、出来る限り参加している。 職員については、交流する場がないのが現状である。		今後、交流する機会があれば職員も参加できるような取り組みを行なって欲しいと思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組みは行なっているが不十分である。 親睦会を設けたりはしている。		職員一人ひとりのストレス軽減に向けた取り組みを行なって欲しいと思う。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現在は、取り組めていないように思う。		全体的な把握だけではなく、職員個々の立場の状況等の把握にも努めて欲しい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とよく話をし信頼関係を築けるように心掛けている。 「まずは本人の話を聴く」を心掛けている。 現在はまだ、本人が遠慮をして本心を話せていないように見受けられる。		本人達が遠慮なく話ができるように、相談できる雰囲気づくり、声かけの仕方にも工夫をしていきたい。 また、どのスタッフも本人の気持ちを理解し対応できるように努めていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族から相談があった時は、その都度、話をし対応している。 良く聴き受け止める努力もしているが、十分ではない。		困っていること、不安に思っている事を話せていない御家族もいらっしゃるように思う。こちらからも、それを察し、伺えるようにしていきたい。 もっと信頼関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とは話し合いをし、納得した上で支援を開始している。支援の内容も、本人とは相談し対応している。御家族とは、相談を受けた時には、話し合いをしている。一つひとつの支援に対しての話し合いは出来ていない。		家族との話し合いが不十分なので、家族ともじっくり話し、それぞれが納得した上で支援を開始していけるようにしたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実施しているが不十分である 本人とは相談しながら少しずつサービスを開始しているが、御家族との相談は不十分である。 職員同士、行っていくサービスの内容の共有が出来ていない。その為に、本人へ負担を与えていることもある。		御家族とも相談しながらサービスの実施を行いたい。また、経過報告を行ないながら、本人へ負担のないようにサービスを開始していきたい。 本人が戸惑いなく場に馴染めるように、スタッフは行なっているサービス内容を理解し、共有できるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ多く一緒に過ごす時間を設けるようにはしている。ただ、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあうというよりは、介護する側からの一方的な「支えている関係」になっているのが現状である。		「グループホームのケアとはどういうものか。」「なぜ、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係が必要なのか。」という理解が出来ていない事が原因であるように思う。運営者、管理者、職員全員で学ぶ機会を多くもち、共通認識していくことが大切であり必要と思う。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の本人に対する思いへの理解が出来ていないなど、職員の一方的な気持ちで本人との関係を築いていっているように思う。		御家族とのコミュニケーション不足を感じる。出来るだけ多く御家族とコミュニケーションを図り、御家族の本心の気持ちを理解し、同じ気持ちで本人を支えていける関係を築いていけるようにしたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	まず、これまでの本人と家族との関係の把握が出来ていないのが現状である。		まずは、これまでの本人と家族との関係がどうであったのか。の把握をし、全スタッフが共有していけるようにしたい。共有できたところで、本人と家族との関係を理解し、良い関係が築けるように支援策を検討していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、現在は不十分である。 意思表示できる利用者に対しては、手紙のやり取り等を通して継続している。ただ、希望はあるけれども、遠慮をされて言い出せない利用者もいらっしゃるのが現状である。		多くの利用者は、馴染みの人や場との関係継続の御希望をもっていらっしゃると思う。御希望を遠慮なく言って頂けるような雰囲気作り、環境作り、声かけの工夫に努めていきたい。そして一つでも実現出来るようにしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立されている利用者もいらっしゃる。 職員は、利用者同士の良い関係を築く為の支援が出来ていない。		職員の中で、こういった場面でも「問題行動」として受け止めてしまう傾向がある。また、物事に対してネガティブに捉えずにポジティブに考えられるようにしていければと思う。運営者、管理者、職員全員のケアに対する勉強不足を感じるので学ぶ機会を多く設ける事が必要だと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は取組んでいない。 契約終了後、利用者や御家族からの問い合わせや相談があった場合は応じるが、こちらから積極的に取組んではいない。		今後も利用者や御家族からの問い合わせや相談があった場合は応じる。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握が出来ている職員もいれば、把握の出来ていない職員もいる。		まずは、全職員が同じように把握し、共有していけるようにしていきたい。また、把握できていても、本人本位の支援が出来ていないので、少しでも本人の思いや希望に沿ったケアが出来るように努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握が出来ている職員もいれば、把握の出来ていない職員もいる。把握できていても、支援する中で活かされていないのが現状である。		まだまだ把握出来ていない事が多いと思うので、利用者や御家族と話をし、情報収集に努めたい。支援に活かされれば、利用者一人ひとりが快適な暮らしが出来ると思うので、どんどん活かしていけるようにしたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握に努めているが、不十分である。 把握不足から不快感を与えたりしている場面も多く見受けられる。		把握することも大切だが、まず、認知症の知識を学ぶ事が大切だと思う。全員で認知症について学ぶ機会を多くもっていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、御家族へは、作成する前に希望がないか尋ねるように心掛けてはいるが、不十分である。 また、理解できないまま支援している職員も多い。		御家族、職員とも、もう少し話し合う機会を設け、本人を取り巻く全員が計画の内容を理解し、共有しながら支援をしていけるように努めていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定期間で見直しは行っているが、不十分である。 計画作成者が中心となった見直しになっている。 本人、御家族、職員等との話し合いの場が少ないと思う。		本人、御家族、職員とは大まかな話し合いだけになっているので、良く相談した上で見直しをおこなっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態は勿論の事、日々の本人の思いや気持ち把握できるように利用者との会話を記録に残すようにしている。また、時間毎に出来るだけ詳しく記録を残すようにしている。 職員によっては、気づきがなく記録に差がある。 記録が実践へ反映されていない。		気づきや工夫が出来る職員と出来ていない職員とで記録の書き方に差が出ている。気づきや工夫することの大切さを職員全員で認識していきたい。そして、情報を共有し実践につなげていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は取組めてはいない。 外出の機会は設けているが、本人の希望に沿ったというよりは、スタッフ側が計画を立て行き先を決定している状況である。		本人の思いや要望の中には住み慣れた場所へ行きたい、買い物に出掛けてみたい等の声が多く聞かれるのも事実である。今後、出来ることから少しずつ可能にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出来ていない。 双方の連携が取れていないように思う。		機関によっては、十分な理解を得られていないところもあると思うので、理解を得られるような呼びかけも必要だと思う。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域への呼びかけや働きかけは行っているが、実際、活用できていない。		理解を得る為にも、まだまだ、呼びかけや働きかけを積極的に行っていくことが必要だと思う。 身近な町内会の行事等からでも参加していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、該当する方はいらっしゃらない。		今後、必要に応じては、検討していきたい。 また、お互いに協力し、連携が図れるように情報交換や関係づくりをしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、本人が受診する理由が分かり、納得できるように説明と声かけを行うようにしている。また、受診後には、本人へも結果報告をし、不安のないようにしている。 御家族に対しては、受診内容、受診結果内容によっては、報告、連絡、相談を行っている。		御家族に対しては、報告、連絡の仕方が不十分だったり、その後の経過の報告、連絡が不十分であったりするので、検討していきたい。 御家族によっては、連絡の頻度について、多く感じたり、少なく感じたりされているようなので、それぞれの御家族の状況に応じた連絡の仕方も考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医との関係づくりは出来ていない。現在は、困難なケースはないが、今後、必要に応じて主治医の先生と相談しながら支援していく方向である。		主治医の先生と家族と密に連絡を取り合い、本人の一番良い方法で治療していけるようにしていきたい。ただ、医療だけに頼る事のない様にケアを充実させていきたいと思っている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療面で職員が疑問に思った点など気軽に質問が出来ている。また、その都度、返答をもらえている。日勤帯、異状のあった利用者については、夜間帯に状態変化があった際の対処法が聞けるが、夜間に急変があった際の対処法が聞けるかの不安はある。		夜間については、直接、主治医の先生に状態報告し、指示を頂いているが、看護職員へ少しの事でも気軽に聞ける環境があれば、職員も不安なく夜勤の業務が出来るのではないかと思う。日頃から、利用者によくある状態変化と、対処法を看護職員から学べる機会があっても良いと思う。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ここでの状態や認知症の症状、対応の仕方を理解して頂けるように入院連絡表を準備し、情報交換を行っている。入院中は、スタッフが定期的に面会に行き、本人の状態の把握と、病院職員との情報交換も行っている。退院時には、病院からの退院連絡表を頂き、情報交換を行っている。		御家族、病院、グループホームとの連絡の内容にずれがあったりする事があるので、連絡の取り方を工夫していきたい。もっと、病院関係者と密に情報交換し、入院前の状態から出来るだけレベル低下のない様に努めていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について現在、取り組もうとしている。現在の本人の状態は、他入居者の方々と変わらない生活を送れている。その為、今のところ今後の具体的な対応については、本人、御家族、主治医の先生等とも話し合いは行っていない。御家族、主治医の先生、職員全員とも終末ケアを行っていく事は理解している。		早めに御家族や主治医の先生、職員との話し合いの場を設け、今後の方針を打ち出していった方がよいと思う。それぞれの立場から本人にとって一番良い方法を、どのように支援していくのか具体的に話し合っていきたいと思う。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御家族、主治医の先生、職員全員が、終末期の支援をしていく事に対して理解はし取組んではいる。現在は、本人の病状も安定しているため、今後の変化に備えた組み方についての検討や準備が出来ていない。		早い段階での今後の支援の取り組み方について話し合いの場を設けていきたい。各々が、本人にとって一番良い方法で終末期を過ごせるように、役割をもって支援できるようにしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ここでの生活状況を、移り先へ書面で伝えしている。移った後の状況の把握は出来ておらず、ダメージがあったかどうかの把握も出来ていないのが現状である。		ここでの生活状況のお知らせは、これまで通り行っていくつもりではある。ただ、移った経緯がどうであれ、移り先では移り先での新たな生活があって、本人もなれていかなければならないと思う。こちらからの積極的な情報提供は必要ないようなと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人を傷つけている声かけが日常的に聞かれている。職員は、自分の声かけによって傷つけている事に気付いていない事が多い。</p> <p>外来者が来られている際、利用者のプライバシーに関することを何気なく話している事もある。</p>		<p>声かけについては、全職員で学ぶ必要があると思う。職員が自分の発した言葉で利用者や家族を傷つけている事に気付いていない事が問題であると思う。まずは、基本的な声かけの仕方から学んでいきたい。</p> <p>プライバシーの確保の大切さについても、もう一度、全スタッフで確認し、取り扱いを徹底していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員の立場で物事を考え実践している事が多い。その為に利用者が混乱したりストレスを溜めているように思う。また、職員の勝手な思い込みで支援している事も多い。</p>		<p>まずは、「グループホームのケアとはどういうものか。」という理解が出来ていない事が原因であるように思う。運営者、管理者、職員全員で学ぶ機会を多くもち、共通認識していくことが大切であり必要と思う。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>現在は、職員側の決まりや都合を優先しているように思う。一人ひとりのペースというよりは、九人を同じように支援しているのが現状である。</p>		<p>まずは、「グループホームのケアとはどういうものか。」という理解が出来ていない事が原因であるように思う。運営者、管理者、職員全員で学ぶ機会を多くもち、共通認識していくことが大切であり必要と思う。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容、美容については、本人の望む店があれば行くようにしている。身だしなみやおしゃれについては、支援が不十分である。</p>		<p>身だしなみやおしゃれについては、「できること、できないこと」の見極めをし、出来ないところの支援ができるようにしていきたい。過剰に手を出し過ぎていたり、逆に出来ないのに、支援ができていなかったりするので、見極めが出来るようにしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や食事、片付けについては、職員と利用者が一緒になって行っている。</p> <p>献立や味付け等は、職員が中心になって行っている。</p>		<p>献立や味付けなども利用者が中心になって出来るようになっていきたい。利用者の好みや食生活の中に取り込めていないので、出来るだけ取り込めるようにしていきたい。</p> <p>利用者が遠慮することなく、好みを言える環境をつくってあげる事も必要だと思う。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在は、飲食物を自己管理している方はいらっしやらない。嗜好物を食したいという希望は聞かれている。現在は、食事時やお茶の時間に希望の多い嗜好物を全員へ提供していく方法を取っている。</p> <p>現在の職員の力量では難しい。</p>		<p>一人ひとりの嗜好も違ったり、食べたい時間帯も、それぞれだろうと思う。職員が色々な意味で自己管理の把握が出来き、見守れる状況が出来るようになった際は、是非、試みてみたいと思う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>職員のケアの知識不足を感じる。間違った認識でケアを行っている為、レベル低下に結びついているケースが多いのが現状である。</p>		<p>職員一人ひとりのケアに対する意識と質の向上を図っていききたい。基本的な介護技術を学び、身につけることから始めていききたい。また、統一したケアが出来るように周知徹底していききたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>開園して一年間は、利用者も職員も基本的な習慣を身につける目的で入浴日も入浴時間も決めて行ってきた。</p>		<p>開園して一年経ったので、利用者も職員もお互いを知る事が出来てきている。これからは、本人の希望に沿った取り組みを行っていけるように思うので、柔軟な対応、支援を心掛けていききたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>職員側の立場で支援しているのが現状である。職員の価値観で支援している為、利用者を不愉快な気持ちにさせている事も多い。</p>		<p>一人ひとりの生活習慣の把握をし、全職員とも統一した支援が出来るように心掛けたい。また、職員の価値観で判断、支援しないよう徹底していききたい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者によって支援が出来ている方と出来ない方がいらっしゃる。また、差がある。職員が生活歴十分な把握が出来ていなかったり、力の見極めが出来ていなかったりする為、支援に結びついていない。</p>		<p>まずは、職員が一人ひとりを色々な視点から把握がし、何が出来て何が出来ないかを見極める事が大切だと思う。そして、本人の思いを聞きながら支援していききたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在は、基本的には、本人や御家族と相談して職員が管理している。ただし、本人の安心の為に、少ない金額ではあるが、所持している方もいらっしゃる。</p>		<p>本人や御家族の御希望があれば、本人に所持してもらい自由に使えるように支援していききたい。現在は、逆に安心の為に、預かっていて欲しい。と手渡される利用者もいらっしゃる。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日、散歩には出掛けている。買い物にも交替で出掛けている。最近、職員が立てた計画ではあるが、交替で外出できるように支援している。外出の希望は多いが、希望に沿った支援が出来ていないのが現状である。</p>		<p>出来るだけ多く外出できる機会を設けていききたい。また、その日のその時の気分で日常的に外出できるようにしていききたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している</p>	<p>出来ていない。外出する事の大切さは理解できているが、職員が、ここまで取組めないのが現状である。</p>		<p>これまでの一年間は、利用者との信頼関係の構築を目標として取組んできた。信頼関係も少しずつ築かれてきたので、今後、取り組んでいききたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望のある利用者については、支援している。 定期的に御家族へお電話をしたり、親しい方へ御手紙を書いて出されている。		御希望のある利用者は、他にもいらっしゃると思う。なかなか言えなかったりするので、こちらから声かけをする等、気持ちを汲み取り支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族の方は、良く訪問して下さっている。 知人や友人の方の訪問は、少ない。 居心地良く過ごせているかは疑問である。 手紙のやり取りをされている利用者に対しては、知人や友人の方の訪問が多いように思う。		まずは、玄関周りの環境づくりが必要だと思う。訪問される方の中には、入りづらいと御意見される方もあるので、見直して生きたい。御希望があれば、本人と知人、友人の方とのつながりを支援していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しい理解は出来ていないと思う。 身体拘束はしてはいけないとは理解はしているが、ケアの中には拘束と思われるようなこともある。ベット柵の使用の仕方、車椅子の置き方、置く場所、等。		全職員で身体拘束に対する認識をしっかりとつ必要だと思う。また、ケアの中で見られる拘束については、全スタッフで考え、どういった理由で拘束になり、してはいけないのかを明確にしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関にも建物玄関にも鍵が掛かっている。 防犯防止である事は、理解できる。 利用者は自由な出入りが出来ず、戸惑っている光景を良く見かける。また、スタッフの中にも、「鍵が掛かっているから出ないだろう」といった安心感も出てきているように思われる。		理由があつての施設であっても、利用者は自由に出入りできる環境をもつべきだと思う。ただ、現在の職員の力量、技量では対応が難しいと思う。今後は、自由な出入りが出来るように支援していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮できていない。 九人の所在が把握できていなかったり、居室で過ごされる利用者の行動が心配だからと、居室の扉を開け様子を見たりしているのが現状である。		プライバシーに配慮する事に対して、職員の認識がうすい。配慮が足りないが為に転倒につながりしているので、全職員で考えていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取組めていない。 危険という理由だけで職員が管理しているように思う。 利用者が使いたい時に使える環境が出来ていない。 石鹸等、自分で使える方は、自分で管理してもらっている。		裁縫道具など、使いたい時にいつでも自由に使えるようにしたい。利用者の立場で考えていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった際は、事故報告書に記録し、全職員で確認するようにしている。 また、事故が起こる前に防ぐ事を目的として、ヒヤリハットの記録もしている。 ただ、この記録が活かされていない。		事故防止の為の記録の活用を、しっかりとしていきたい。 事故がなぜ起きたのか、どうする事で防げるか。など、全職員で話し合える場を持っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、いつでも職員が確認できるようにしてある。 定期的な訓練は出来ていない。		いざという時、活用できる様に定期的な訓練が必要だと思う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を地域の方々の協力を得て実施している。		今後も定期的な訓練をしていく。また、職員は、日頃から災害時の避難経路等の確認をしたり、避難のさせ方等のシミュレーションをしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居する際に御家族の方とお話している。ただ、入居時と状態が変化した際のリスクの説明が十分に出来ていないように思う。		状態が変化する度に御家族との話し合いが出来れば良いと思う。本人と御家族が納得できるように話し合いをしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	以前に比べると体調の変化や異変の早期発見が出来るようになってきているが、十分とはいえない。異変に気付いた際は、ここで出来る処置をしながら、主治医の先生に連絡し、指示を頂いて対応している。		今後、体調の変化や異変に早期発見できるように、気づきと知識を身につけられるようにしたい。情報の共有が出来ていないので、共有し対応出来るように徹底していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できるように周知徹底している。 理解できないときや疑問に思う時は、主治医の先生や薬剤師の先生に聞きながら服用支援している。 ただ、飲み忘れや誤薬が時々ある。 投薬チェック表を作成している。		投薬チェック表を活かす事で、飲み忘れや誤薬も防げると思うので、活用していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を付け、把握するようにしている。 現在は、下剤を使用する事が多い。 便秘の原因や及ぼす影響は理解できているが、予防する為の工夫が出来ていない。		全職員で、便秘の原因や及ぼす影響を理解する事と、予防する為の対応と工夫を考えていきたい。 出来るだけ薬に頼る事のない様に支援していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	身体面で自立されている利用者の支援が不十分である。 また、支援が必要な方でも、職員によって対応の仕方が違うなど統一したケアが出来ていない。		一人ひとりの「出来るところ、出来ないところ」の把握を職員全員が把握し、支援していきたい。 身体的に自立されている方こそ見落としがちなので、出来ていないところの把握と適切な支援に取組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表の記録をしている。水分摂取量については、排泄チェック表に水分量を記入するようにしている。ただ、チェック表が支援に活かされていないのが現状である。		チェック表の活用を徹底していく。 職員側の価値観で支援するのではなく、一人ひとりの生活習慣や食事の摂取量などの把握に努め、それに応じたケアが統一出来るようにしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを作成し、誰でもいつでも見られるようにしてある。 消毒液を準備、使用し予防に取り組んでいるが、実際に感染した時の対応が出来るかは疑問である。		予防や感染症に感染した時の対応について、定期的に学び確認するようにしたい。 まずは、予防の周知徹底を図っていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	取組んではいるが、十分ではない。 食器洗い等を利用者がして下さる為、洗い残しがあったり、濡れたままの食器を直してあったりする。 冷蔵庫の中にも、食べ残しの食品が入ったままになっていることがある。		利用者の「出来ること、できないこと」の見極めをしっかりと出来るようにする。そして、支援と声かけの工夫を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安心して出入りできる環境は出来ていない。 工夫が足りず冷たく殺風景な感じがする。 「どこが玄関なのかわからない。」と言われる方もいらっしゃる。		工夫次第では雰囲気が変わると思うので、訪問される方の御意見や利用者の意見を聞きながら工夫していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しずつ取組んでいるが、十分とはいえない。 職員の価値観で空間づくりをしている。 光などで利用者に不安を与えたりしている。		利用者の居心地の良い場所を利用者と一緒に工夫していきたい。職員の価値観で考えない事の周知徹底をしていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心して落ち着ける居場所づくりが出来ていない。 自分の部屋でも自由に過ごせる事が出来なかったり、親しい利用者と自由に話が出来ていなかったりする。		職員側の都合で声かけや支援がされているので、全職員で考えていきたい。 職員が過剰に声かけをしたり支援をしているのも原因の一つだと思うので、声かけや支援の仕方を学びよい支援が出来るように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている利用者と出来ていない利用者があり、差がある。職員と利用者、御家族との相談も不十分である。また、それぞれの御家族の気持ちの持ち方にも違いがあり、理解が得られない事もある。		利用者と相談を十分にしていきたい。また、なかなか理解が得られない御家族に対しては、呼びかけと説明の仕方の工夫をしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	配慮が出来ていない。職員一人ひとりが、「においがあることに気付いていない」、「においが発生する理由が何なのか」、「なぜ温度調整が必要なのか。」等の理解が出来ていないように思う。		まずは、基本的なところから学んでいく必要があると思う。「においが発生する理由が何なのか」「なぜ温度調整が必要なのか」等の理解を全職員が出来るようにし、同じように配慮していけるようにしていかなければならないと思う。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な箇所も多く自由には行き来出来ない。また、利用者の世代には使い難い器具も多く、不安を与えていたり、混乱を招いたりしている。不安や混乱を防ぐ為の工夫は身近な所では行っているが不十分である。		まだまだ工夫することによって不安や混乱を防止でき、自立した生活が可能になると思うので、工夫していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力の見極めが出来ていないのが現状である。その為に、混乱や失敗を繰り返している。また、わかる事まで手を出し、過剰なケアになったり、わからない事をそのままにし、レベル低下につながったりしている。		「グループホームのケアとはどういうものか。」という理解が出来ていない事が原因であるように思う。運営者、管理者、職員全員で学ぶ機会を多くもち、共通認識していくことが大切であり必要と思う。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには花や野菜などを植え育てている。ただ、利用者一人ひとりの力を見極められておらず、スタッフが中心になっているように思う。		今後は、利用者が中心となり自由に活動出来るように活かしていきたい。

サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの
		ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在は不十分であるが、利用者の思いを大切にしたいケアを目指している。

身体的なケアの充実も図るが、本人の心に持った本音の気持ちや思いを受け止め、その思いを実現できるように支援していきたい。